

米ラジオ・オンデマンド時代の到来か？

～拡大する「ポッドキャスト」サービス～

NHK放送文化研究所 上級研究員
柴田 厚



Podcast

ポッドキャストとは？

“携帯端末などに音声データファイルを保存して
聞く放送番組・配信コンテンツ”

⇒ダウンロード～聞く時に通信環境は不要

【ストリーミング～聞く時に通信環境が必要】

日本の場合

⇒ストリーミングが中心

■日本

NHK『らじる★らじる』（2011年9月～）

R1・R2・FMの「ライブストリーミング（8地域）」に加え、「過去の放送」コンテンツ



特集番組、ニュース、情報・カルチャー、
語学（英語、その他）、高校講座、
地域放送（一部）

■日本

民放『radiko』（2010年3月～）

全国82局が参加

- 「エリアフリー」(有料)2014年4月～
全国の番組を聴取可能
- 「タイムフリー」(無料)2016年10月～
過去一週間、1番組につき3時間以内の聴取
- 「シェアラジオ」(無料)2016年10月～
好きな番組をピンポイントでSNSでシェア

アメリカの場合

⇒ストリーミング＋ダウンロード

■アメリカ

全米のラジオ局～1万5,491局 (2016年3月現在 FCC調べ)

○ラジオ聴取率〔12歳以上、2015年〕(Pew Research Center調べ)

- ・週に一度以上、地上ラジオを聞く人：**91%**
- ・ // オンラインラジオを聞く人：**57%**
〔スマートフォン73%、パソコン61% :2014年〕

<http://www.journalism.org/2016/06/15/audio-fact-sheet/>

■アメリカ

ポッドキャストの広がり

Pew Research Center

『State of the News Media』2015年版から項目登場

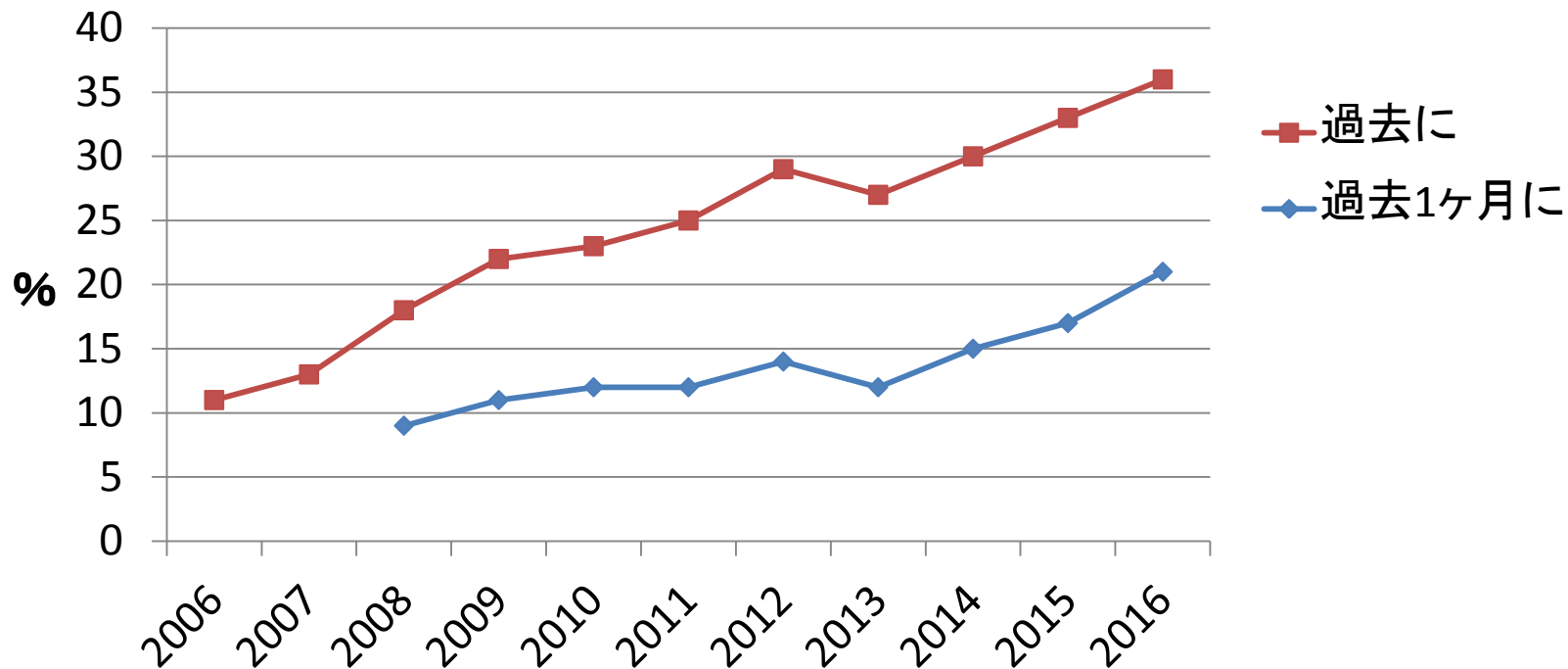
- ・ユーザー数、番組数とも増加中
- ・“ニッチ”なメディア、国民の半分は知らない
- ・過去1ヶ月の聴取は21% (5人に1人)
- ・過去に一度でも聴取は36% (3人に1人)

〔The State of the News Media 2016年版(2016年6月発行)より〕

■アメリカ

ポッドキャストを聞いた人(12歳以上)

Pew Research Center調べ



■アメリカ

広がりにつつあるポッドキャスト

Pew Research Center

『State of the News Media』2015年版から項目登場

- ・ユーザー数、番組数とも増加中
- ・“ニッチ”なメディア、国民の半分は知らない
- ・過去1ヶ月の聴取は21% (5人に1人)
- ・過去に一度でも聴取は36% (3人に1人)

〔The State of the News Media 2016年版(2016年6月発行)より〕

⇒ “この一年でさらに増加”

■アメリカのポッドキャスト

NPR(全米公共ラジオ)と商業ラジオの二元体制

⇒ NPRが
ポッドキャストの
牽引役

NPR本部
(ワシントンDC)



■アメリカのポッドキャスト

NPR(全米公共ラジオ)と商業ラジオの二元体制

⇒ NPRがポッドキャストの牽引役



Serial: 2014年配信(1時間×12回)
1999年の殺人事件の調査報道
(iTunesで最速の500万DL)

⇒ 2015年に再審への道を開く

■アメリカのポッドキャスト

NPR・ヘルムCDO

「Serialの成功は、“語り(story-telling)の力”と、次が待ち遠しくなるような“物語の連続性”を取り入れたこと。共に昔からラジオが持つ良さ」

+

「スマートフォンなどのデジタル機器の進化（好きな時に、好きな所で、好きなものを聞ける）」

↓

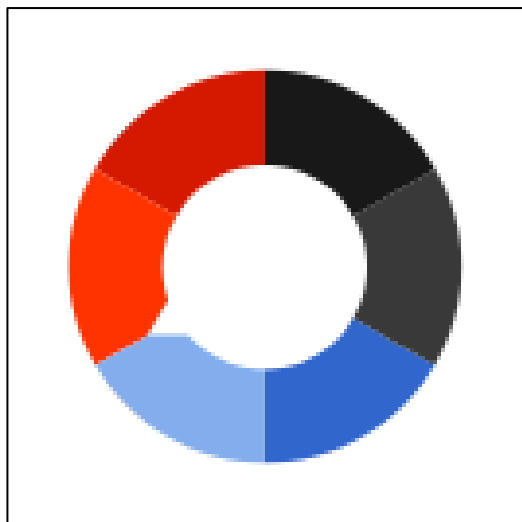
ポッドキャストの可能性

〔良質なコンテンツ+優れたデバイスの融合〕



NPRチーフ・デジタル・オフィサー
トーマス・ヘルム氏

■アメリカのポッドキャスト

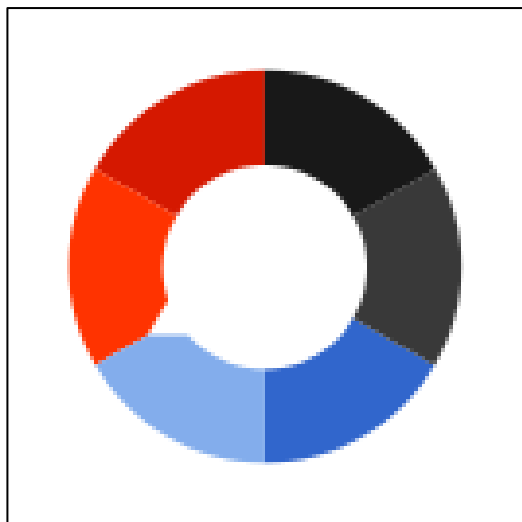


NPR Oneアプリ

NPR One (2014年配信開始)

- ・NPRなどが制作・放送する
多様なコンテンツを配信
- ・アルゴリズム(機械) + NPR編集者(人間)
による選択
- ・使うほど個人向け内容に
「パーソナライズ」

■アメリカのポッドキャスト



NPR Oneアプリ

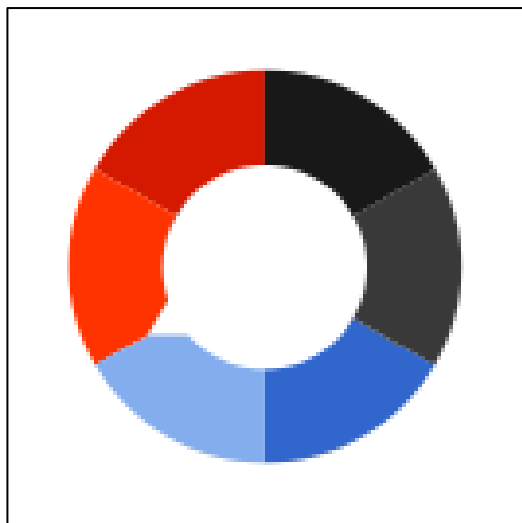
○Listen～“おまかせ”

・主にニュース、時事ネタ

○Explore～“探す・選ぶ”

- Deep Dive(深掘り)
- Featured Shows(特集番組) ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒
- Recommended(おすすめ)
- Catch Up(最新ニュース)
- Followed Show(フォロー中の番組)
- Recently Heard(履歴)
- Up Next(次のレポート)
- Listen Later(保存)

■アメリカのポッドキャスト



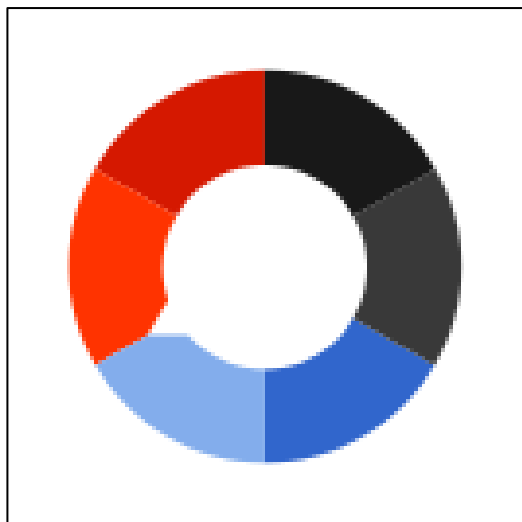
NPR Oneアプリ

■Featured Shows (現在、約25番組)

- ・Planet Money (経済) 
- ・NPR Politics (政治) 
- ・Pop Culture Happy Hour (本・音楽・テレビ 他) 
- ・Modern Love (朗読エッセイ) 
- ・Wait, Wait...Don't Tell Me (笑いとクイズ) 
- ・Cinema Junkie (映画) 
- ・Alt Latino (ラテン音楽) 
- ・Back Story (歴史) 
- ・TED Radio Hour (ラジオ版TED) 

・
・

■アメリカのポッドキャスト



NPR Oneアプリ

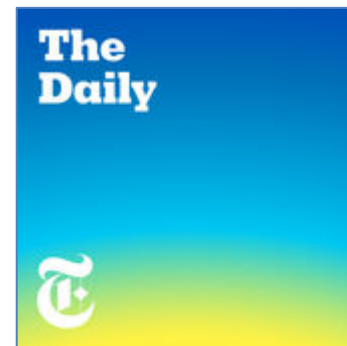
NPR One

- ・多様なポッドキャスト制作の“実験の場”に
- ・様々なポッドキャスト(NPR、ほか)の“配信プラットフォーム”に
- ・制作者(プロデューサー、技術者)の“育成、輩出のハブ”に

ラジオ局以外の取り組み

■アメリカのポッドキャスト

New York Times



『The Run-Up』(2016年8月～)

- ・週1回、30～60分
- ・大統領選挙をウォッチング

『The Daily』(2017年2月1日～)

- ・月～金、約20分
- ・トランプ新政権をウォッチング

■アメリカのポッドキャスト

New York Times



・キャスター：
マイケル・バルバロ氏

NYT政治記者

「“高み”からでなく、最高水準のものを届ける」



(写真:ともに
New York Timesより)

・エグゼクティブ・ディレクター：
リサ・トービン氏

WBUR(ボストンの公共ラジオ)から移籍

「ラジオの特徴は親密さ、即時性、透明性、そして肉声
(intimacy, immediacy, transparency and voice)」

■アメリカのポッドキャスト

New York Times



『The Run-Up』

2016年11月8日(火)

大統領選挙当日

トランプ氏当選が決まった後
深夜3:30頃に収録して配信

■アメリカのポッドキャスト

The Run-Up (2016年11月8日深夜に配信)

(USA, USA, USA…)

○ 「Run-Up」司会のマイケル・バルバロです。

〔皆さんに「全てのアメリカ国民のための大統領」になることをお約束します。これは私にとってとても大切なことです。
(支持者の歓声) 私に投票しなかった人たち～少ないとは思いますが～も一緒になって、この偉大な国をひとつにまとめていきましょう。〕

■アメリカのポッドキャスト

The Run-Up (2016年11月8日深夜に配信)

○今ここ、ニュースルームは夜中の3時30分です。とてもショックです。こんなはずではありませんでした。過去50年間で最大の“政治的番狂わせ”です。D. トランプ氏が、大方の予想に反してフロリダ、ペンシルベニア、オハイオ、ノースカロライナなどの重要州で次々に勝利し、276人の選挙人を獲得して、クリントン氏を破りました。クリントン氏は敗北宣言を出しました。全ては終わりました。票の数え直しはありません。トランプ氏が勝ったのです。

■アメリカのポッドキャスト

New York Times



『The Run-Up』

2016年11月8日(火)

大統領選挙当日

トランプ氏当選が決まった後
深夜3:30頃に収録して配信

⇒NYT記者の“人間味”

■アメリカのポッドキャスト

Washington Post



『Can He Do That?』

・トランプ新政権をウォッチング
(2017年1月～)

- ・週1回・金曜配信、約30分
- ・各界の専門家や

Washington Post記者が出演

2017年1月27日・第1回配信

■アメリカのポッドキャスト

Can He Do That? (2017年1月27日 第1回配信)

『今日から始まった「Can He Do That?」にようこそ。私たちは、これまでに例のないトランプ新政権を検証していきます。

番組では、毎週ひとつのテーマを取り上げます。例えば、「大統領はホワイトハウスに必ず住まなければならないか」あるいは、「連邦政府職員に（メディアに情報を出さないよう）“かん口令”をしくことは合法か」などといった事柄です。トランプ大統領の示す道筋が、アメリカ国民にとってどんな意味を持つのかを考えていきます。

■アメリカのポッドキャスト

Can He Do That? (2017年1月27日 第1回配信)

司会のアリソン・マイケルズです。毎週、それぞれの分野に詳しい記者を招きます。

今週は、「トランプ大統領のツイッター利用はどこまで許されるか」を取り上げます。大統領は、就任する前のように、政府の方針や特定企業の支援について自由にツイートすることができるのか？ あるいは候補者時代のように、ライバルをツイッターで批判することは許されるのか？

ホワイトハウス担当のアビー・フィリップ記者に聞きます。』

■アメリカのポッドキャスト

Washington Post



『Can He Do That?』

- ・トランプ新政権をウォッチング
(2017年1月～)
- ・週1回・金曜配信、約30分
- ・各界の専門家や
Washington Post記者が出演

⇒配信回数など柔軟に対応か?

■アメリカのポッドキャスト

Center for Investigative Reporting (CIR)

(調査報道センター、カリフォルニア州)



『Reveal

(明らかにする、暴露する)』

- ・非営利ニュースメディア「CIR」による
調査報道専門のポッドキャスト
- ・2015年4月開始
公共ラジオPRXと共同で制作・放送・配信
- ・週1回、約60分
いくつかの特集をまとめたマガジン形式
- ・調査報道と音声メディアの相性のよさ

■アメリカのポッドキャスト

ポッドキャストの課題

- ・誰でもできるが、手間もかかる
- ・収益に結び付けることの難しさ
- ・どのように「見つけてもらう」か？
- ・iTunes Store以外のプラットフォーム？

■アメリカのポッドキャスト

ポッドキャストの今後

○“語りの力”の復権

○“個人の息吹”の力・魅力

○“報道も番組も、
「ドキュメンタリーから笑いまで」”

■アメリカのポッドキャスト

ポッドキャストの今後

“音声メディアの復権？”

~~~~~  
(参考)ケン・ドクター氏:「ポッドキャストに関する5回シリーズ」

<http://www.niemanlab.org/2016/09/an-island-no-more-inside-the-business-of-the-podcasting-boom/>

## ■アメリカのポッドキャスト

詳細は『放送研究と調査』で

〔予告〕4月号

「拡張を続けるアメリカ新興メディアVICEの行方  
～雑誌からネット、テレビ、その先へ～」